

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 16日

事業所名 ほまれっこ

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で季節であるか	43%	14%	43%		中高生が多いため決して広いとは言えないが同法人の部屋を借りることや外での活動を行うことで工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	43%	29%	29%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	86%	0%	14%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	0%	29%	会議等で検討している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	71%	0%	29%	連絡帳や面談で意、要望を聞いている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	71%	0%	29%	外部委員による3半期ごとの評価を行っている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	法人内研修を年に3、4回行い、外部研修も積極的に参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	71%	0%	29%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	0%	14%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	職員間で連携を取り作成している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	86%	0%	14%	固定化していない。	動きのある活動や手先を使う活動、調理活動などバラエティーに富んだ内容。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	0%	14%	設定している。	長期休暇には平日にできない活動を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	86%	0%	14%	個々の課題に応じた支援を行いながら集団活動を計画している。	異年齢の集団での活動を大切にしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	0%	29%	その日のプログラムを全員で確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	0%	14%	終了後は全員が揃わないことが多いので、そんな時はメモや日誌で共有している。	翌日に確認することもある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	0%	14%	業務日誌で記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	0%	14%	週に一回の会議で検討している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	71%	0%	29%	確認している。	パート、アルバイトには周知できていないので行っていく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	43%	29%	29%	児童発達支援管理責任者が参画している。	関係機関と連携して最善の支援に努めている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	86%	0%	14%	マチコミールの活用、家族との連絡帳、送迎時に先生からの引継ぎを行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	43%	29%	29%		常時医療的ケアを必要とする児童の受け入れ体制を取っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	29%	57%	14%	必要であれば行う。	小学校、高学年以上からの利用が多いので就学前に利用していた施設を連絡をとることがないため
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	86%	0%	14%	必要であれば行う。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	29%	29%	あれば行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	14%	43%	43%	あれば行っている。	コロナ以降機会がない。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	43%	14%	43%	あれば行っている。	羽曳野市内の事業所連絡会として代表が参加することはある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%	0%	14%	連絡帳で日々の状況を把握している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	14%	43%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	0%	14%	契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%	0%	14%	行っている。	連絡帳、電話、対面等、相談があれば迅速に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	29%	14%	57%	学習会を行っている。	コロナ以降参集が難しいとことに加え、共働き家庭が多く参加が年々少なっている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	86%	0%	14%	苦情対応窓口を設置している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86%	0%	14%	1ヶ月に1回法人ニュース、2ヶ月に1回ほまれっこニュースを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	注意している。	写真の掲載、外部との情報共有などのため個人情報同意書をいただいている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	0%	14%	個々に応じた方法を取り入れている。	写真、イラスト、ひらがな、わかりやすく話すなど丁寧に伝えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43%	14%	43%	行っている。	月に2回陶芸教室で部屋を貸し出している。法人単位でバザーやコンサート、学習会などで地域の方々と交流している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	71%	0%	29%	防犯マニュアルはない。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86%	0%	14%	火事、地震、津波などの訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	0%	14%	内部、外部研修に積極的に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%	0%	14%	同意書を取り、個別支援計画に記載している。	おうちの方の聞き取りの中で医師の意見も含まれる
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	57%	0%	43%	保護者から血液検査等の診断書をいただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	71%	0%	29%	文書にして保管している。	